

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4077400143
法人名	医療法人 聖峰会
事業所名	グループホーム ひまわり館
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市田主丸町田主丸1004-1 (電話) 0943-72-9512
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 11月 13日

【情報提供票より】(平成19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費	有
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000 円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	530 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要(平成19年10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖峰会 田主丸中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットのホームは、玄関を中央にして南北に対称的に造られた木造平家の建物である。近隣には母体である総合病院や老人保健施設が在り、医療面等で常に連携がなされている。リビングには天窓があり、一角に畳のコーナーも設けており、広々としている。居室には洗面台も設置されている。個々のケアでは、日々の朝礼時に一人について全職員で検討し、よりよいケアサービスに取り組んでいる。利用者から調理方法を教わったり、昼食は職員も同じテーブルで同じ物を食べたり、家族同様自然に支えあう関係が築かれている。利用者、職員共にゆつたりのびのびと落ち着いて暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価による自治区会への加入、時計の設置を増やす、個人ファイルの管理等、改善点は、全職員で取り組まれ改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者もホームの日常を把握していることから、自己評価は殆ど管理者が記載されているが、全職員で取り組むことが望まれる。</p>
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は家族代表、民生委員、市の職員等の参加を得て開催し、利用者の暮らしぶりやホームの取り組みを報告する中で、意見の交換をしたり、改善点等を検討したりしている。改善点については、職員間で検討され改善されている。開催については不定期であり、2ヶ月に1回の定期的な開催が望まれる。</p>
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	<p>家族の訪問時には親しく声掛けをし、話し合うことで苦情や意見が言いやすいように心掛けている。また、苦情や意見は職員間で検討し、速やかに改善に取り組まれている。</p>
重点項目 ④	日常生活における地域との状況(関連項目:外部3)
	<p>自治区会に加入し、公民館行事に参加したり、地域の運動会や、夏祭りに参加している。また、ホームでの行事時に民生委員も参加して桜餅を一緒に作り共に楽しんでいる。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域のため 地域とともに」との法人の理念はあるが、事業所独自の理念はつられていない。	○	地域に密着しているグループホーム独自の理念を、職員間で話し合い創られることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所は住宅街にあることから、地域のために、地域に根ざし福祉の窓口になれるよう、全職員共有して取り組む努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして自治区会に加入している。道路の清掃、ゴミ拾い、公民館の草取り等に参加して地域住民との交流を図ったり、地域の夏祭りや七夕行事や運動会に参加したりしている。また、ホームの行事時に民生委員も参加して桜餅を一緒に作って共に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果、改善点については運営者、管理者が素案を作成し、職員間で検討して具体的な改善に取り組んでいる。自己評価は管理者が殆ど作成しており、職員全員での取り組みではない。	○	自己評価を全職員で取り組む中で様々な気づきや発見があることから、今後は全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、長寿介護課の職員、家族代表、民生委員、職員が参加し、利用者の日常の暮らしぶりや、ホームの取り組み等を報告し、意見交換や助言等を聞き、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会には参加しているが、行き来して連携をしているとは言い難い。	○	ホームへ相談員の派遣を依頼したり、些細なことでも気軽に市へ訪ねて、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在まで成年後見制度や地域福祉権利擁護制度を活用する対象者は無い。管理者は研修会に参加しており、必要時には十分な説明や支援が可能であるが、他の職員はまだ、制度についての学習が行われておらず、制度の理解が不十分である。	○	管理者のみに留まらず、他の職員も研修や学習をして、必要時には十分な説明が出来るような取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には暮らしぶりや預かり金の使途、収支の報告をしている。訪問の少ない家族には半年に1回郵送にて同様な報告を行っている。また、「ひまわり通信」だよりを年に3～4回発行し、家族に郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には親しく声掛け、話し合うことで苦情や意見が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、苦情や意見には速やかに改善できるように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間の異動もあり、年間に3名程度である。顔見知りの関係になるため1ヶ月ほど現任と新任が重なって勤務している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は10代の男性から62歳の職員も勤務している。調査日の昼食は23歳の男子職員が「ここで調理をおぼえました」と楽しそうに活き活きと作ってくれた。釣りの好きな職員が利用者連れて釣りに出かけることもある。また、毎年職員旅行を数名づつ交代で楽しんでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者や家族に関する書類等は職員室で管理しており、情報の管理には十分に配慮されている。人権研修は行っていない。	○	例えば毎月の職員会議の中で、人権に関する学習をして記録に残す等人権教育や啓発に取り組まれることが望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修は4月に実施している。また、法人の介護事業部が年3回行なう研修に、ホームの職員は交代しながら全員が受講している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、ブロックごとの研修は勿論、他ブロックでの研修にも参加して積極的に交流を行っている。また、近隣の同業者が行なう行事にもボランティアとして参加し、交流の機会としている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族には必ず見学してもらい、利用者と一緒にお茶の時間を設けている。入院中の方には職員が何度も面会をして話をしている。昨年度から体験入居を促しているが、未だ泊まりの体験者は無い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの菜園を利用者と一緒に手入れをしたり、利用者から調理の方法、野菜の切り方、ゆで方を教えてもらったり、時には戦争の体験を聞くなど喜怒哀楽を共にしたり、共に支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や趣味など家族に尋ねるが、不十分であり、入居後、利用者との会話の中から情報を得て、一人ひとりの把握をしている。発語のない方は、生活の中での行動やしぐさから、職員と話し合っ把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当制をとっており、担当の職員が利用者の日々の状態や利用者・家族の希望や思いをもとに介護計画の素案を作成し、カンファレンスを行って作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期的の見直しを行い、家族に見せて、意見を聞いている。毎朝、1人の介護計画についてカンファレンスを行っており、活発な意見が介護計画の見直しにつながっている。その他、急変時には、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への送迎や温泉への外泊時の送迎をしている。また、利用者の関係者の葬儀に参列希望があり、一緒に参列したことがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その人のなじみのあるかかりつけ医の継続性を重視し、町内の場合は受診・送迎をしている。必要な時は、家族に受診の報告をしている。20キロメートル以上はなれたかかりつけ医の場合は、家族が連れて行く。家族の希望により協力病院に変更することもある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が希望する場合は、グループホームで看取りをするという方針もっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレでの排泄介助では、プライバシーが守られない状況が見られた。利用者にも子どもに注意をするような発言をした時は、職員には個別に指導を行っている。個人の書類等は、ロッカーに保管・管理をし、且つ取り扱いに気をつけている。	○	高齢者の尊厳を守るケアである基本の見直しと実施が望まれる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を中心に概ね、生活リズムはあるが、朝、起きてこない人には7時に声がけをし、朝食はとっておく。消灯時間も決めておらず、リビングに利用者がいなくなるまで消灯をしない。利用者の希望に沿って買い物に同行するなど、利用者のペースや希望を大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理の下準備の皮むき、缶詰の缶明け、引き膳など、厨房に入らないでもできることをしている。職員と同じものを一緒に会話を楽しみながら、食事をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する人、隔日に入る人、利用者の希望に対応している。お風呂に入りたがらない人には、無理強いをせず、1週間に1回は入るように支援している。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	チラシを用いてのかご編み、畑作業、裁縫、釣り、絵画、らっきょ漬け、桜餅づくり、ドライブ、外食等々、利用者の生活歴や趣味を活かした楽しみごとや気晴らしの支援をしている		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など日常的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠をしない方針である。2つのユニット中、1ユニットは常時施錠せずに、チャイムで人の出入りを把握しているが、もうひとつのユニットは、利用者の状態や職員のその時の人数によって、施錠をしている。	○	利用者の安全を確保しながら、施錠しないで済む工夫に取り組まれることが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の組織図、マニュアル、避難経路を作成し、年2回消防署立会いのもと避難訓練を実施している。また、夜間想定訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士がいるので、栄養バランスの良い献立である。利用者の摂食状況は記録し、水分摂取も概ね把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから対面式になったキッチンが見え、五感を刺激するような生活感がある。リビング兼食堂は天井が高く、広々としている。天窓があり、直接光が入らないような工夫がしてある。そこにはテーブル・ソファ・テレビ、本が数冊並べられたり、囲基板と玉が置いてあったり、畳の間は冬は掘り炬燵を設置する予定であったりと、居心地良く過ごせる空間と雰囲気がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具、テレビ、時計、冷蔵庫、家族の写真、仏壇等を持ち込み、馴染んだ自分の物を持ち込み、居心地のいい居室となるよう配慮されている。</p>		